

# 伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第 23 主日礼拝

## 2020 年 11 月 8 日

### 前奏：

### 招きのことば：詩編 28：6-9

主をたたえよ。 | 嘆き祈るわたしの声を聞いてくださいました。

主はわたしの力、わたしの盾 | わたしの心は主に依り頼みます。

主の助けを得てわたしの心は喜び躍ります。 | 歌をささげて感謝いたします。

主は油注がれた者の力、その砦、救い。 | お救いください、あなたの民を。

祝福してください、あなたの嗣業の民を。 | とこしえに彼らを導き養ってください。

### 罪の悔い改めと赦しのことば：

**会衆：**私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。

(短い黙祷を持ちましょう)

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

### み言葉の部

#### 使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。アーメン。

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

過ぐる一週の歩みをお支え下さり感謝をいたします。先週は、世の中のありさまに失望し、将来をうれうすることもありました。人の目や人のことばに傷つくこともありました。自分の弱さや自分中心の姿にがっかりすることもありました。その中であなたは私たちを守り支えてくださいました。今朝もあなたのみ言葉を慕って集まっています。主よ、どうぞ私たちにお語りください。

信仰生活にも油がきれて苦しみの伴う時があります。神様の力により頼まないで、自分の力で何とかなると油断することもあります。しかし、あなたはみ言葉によって私たちを正しい道に導き返してくださいますことをありがとうございます。

今日もイエス様のみ言葉を聞き、イエス様の聖餐にあずかります。イエス様は十字架の死によって私たちの罪の正しい裁きをすべて担い、そして復活して私たちに豊かな実を結ぶ新しい心を与えてくださいます。私たちはここから人々の間に遣わされていきます。どうか、イエス様に愛されている者として、神様と人々に役立つ歩みをさせてください。

どうぞ教会の土台であるイエス様が、私たちを導いてください。愛し合い、高めあっていく交わりとしてお育てください。新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐべく緊張感を保ちながら、私たちは新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを力づけてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

## 使徒書朗読：I テサロニケ 4 章 13-18 節

兄弟たち、既に眠りについた人たちについては、希望を持たないほかの人々のように嘆き悲しまないために、ぜひ次のことを知っておいてほしい。イエスが死んで復活されたと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してくださいます。

主の言葉に基づいて次のことを伝えます。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人たちより先になることは、決してありません。すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。ですから、今述べた言葉によって励まし合いなさい。

## 福音書朗読：マタイによる福音書 25 章 1-13 節

「そこで、天の国は次のようにたとえられる。十人のおとめがそれぞれともし火を持って、花婿を迎えに出て行く。そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。愚かなおとめたちは、とも

し火は持っていたが、油の用意をしていなかった。賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた。ところが、花婿の来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠り込んでしまった。真夜中に『花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声がした。そこで、おとめたちは皆起きて、それぞれのともし火を整えた。愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。』賢いおとめたちは答えた。『分けてあげるほどはありません。それより、店に行って、自分の分を買って来なさい。』愚かなおとめたちが買いに行っている間に、花婿が到着して、用意のできている五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。その後で、ほかのおとめたちも来て、『御主人様、御主人様、開けてください』と言った。しかし主人は、『はっきり言うておく。わたしはお前たちを知らない』と答えた。だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」

### 讚美歌 242 番

1. 「悩む者よ 我に来よ」と、恵みの主は 招きたもう。  
重荷負いて あえぐ友よ、主のみもとに 来たり いこえ。
2. 「悩む者よ 我に来よ」と、ひかりの主は 招きたもう。  
暗き道に 迷う友よ、主のみもとに 急ぎ 帰れ。
3. 「悩む者よ 我に来よ」と、すくいの主は 招きたもう。  
罪を悔いて なげく友よ、主のゆるしの みこえ 聞けや。                      **アーメン**

### 説教：「壺に油を入れて」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今朝のみ言葉では、いつも用意しておくことの大切さが教えられています。10人のおとめがいて、賢い5人は予備の油を小さな壺に入れて用意していたけれど、愚かなおとめたちは油の用意をしていなかった、というお話です。

当時の結婚式は盛大なものでした。結婚式のお祝いは花婿の家で行われます。晚餐の準備の整い具合でタイミングをはかりながら、花婿は実家で待つ花嫁を迎えに行きます。もちろん、突然花婿が到着して驚かせないため、使いの人に、もうすぐ花婿がきます、と伝えてもらうことになっていました。花嫁は花婿にエスコートされて、動物の背中に乗せてもらって、ともしびをかかげるおとめたちに囲まれて、花婿の家に向かいます。その行列はまず村を練り歩き、人々はおとめたちのかかげるともしびに照らされた花嫁の美しい姿を見て祝福するのです。

ともしびが光り続けるためにはその燃料である油が必要です。賢いおとめはわきまえていました。予備の油を十分壺に入れて準備していました。携帯電話にはいつも充電がしっかりしてあるように、自動車もガソリンがなくなってしまう十分に給油をしておくように、試験勉強は十分に前もって始めるように、大切な記念の食事会なら予約をいれておくように、私たちも心がけますね。これは常識です。ところが愚かなおとめたちは、油の用意をしていませんでした。自分たちの考えていた時間に花婿が来たら、ともしびのために十分な油があると思っていたのでしょう。しかし花婿の到着は遅れ、10人とも眠ってしまいました。夜中になって使いの人が来て起こされたとき、油が足りないことに気付いたのですが手遅れでした。人の油で自分のともしびをつけることはできません。買いに出かけている間に行列は去ってしまい、遅れて花婿の家に行きましたが扉は閉ざされていました。

これは終わりのときのたとえ話です。私たちにはイエス様がいつ迎えに来られるか、また、いつこの世を去る日が来るか、確かなことは知らされていません。マタイによる福音書では今日の個所の少し前から少しあとまで、天の国に関する一連のお話が続きます。世のおわりにイエス様は再び来てくださると記されています。しかし、それはいつなのかは私たちに知らされていません。それはちょうどノアが箱舟を山の上につくったとき、人々は洪水のその日まで何も考えないで飲み食いしていたのと同じで予期しないときに突然来るのです。私たちはそれでも自分でだいたいの推察をします。しかし十分な準備ができていないと、あの愚かなおとめたちのようになってしまいます。イエス様がいつ来てくださってもよいように、またいつこの世を去る日が来てもよいように、目を覚ましていなさい、と言われていきます。用意をしていないさい、ということです。

賢いおとめと愚かなおとめの違いように、買い置きしていた油を壺に入れて持っていたかどうかという準備の違いは何でしょうか。ともしびには油が必要だ、とほんとうに考えているかどうか、の違いです。クリスチャン生活にも神様のめぐみが必要です。それは、神様が私を赦していのちを与えるのであって、私たち自身が自分で自分の罪をつぐなったり赦したりすることはできないことをわきまえていること、さらに、神様がわたしを新しい人にしてくださるのであって自分で自分を変えて新しくなることはできないこと。これらの当たり前のことをわきまえることです。自分の臆測で大丈夫だろうと判断するのではなく、いつも十分に福音のみ言葉を聞き、主イエス様の血と体の聖餐にあずかりましょう。油のような聖霊はそのようにして私たちを整え続けてくださいます。

しかし、そこまで考えていなかったり、軽く考えていたりするとすっかり備えを怠ってしまいます。イエス様はそのことをご存じなので今日のたとえのお話を私たちにしてくださっているのです。

洗礼を受けて、罪赦され、新しいいのちをいただいた私たちは、永遠のいのちの歩みを始めました。私たちはいつも、イエス様に罪赦されて新しいいのちをいただいたことに立ち返って、いつも新鮮な心で歩みます。しかし、油が用意されていないと、つまり、自分の力でがんばろうとすると、罪と悪魔と死の力にいとたやすく翻弄させられてしまいます。

生まれながらの私たちの性質は、罪と妥協し、罪をおかし、それでも神様の前で自分は悪くない、犠牲者だ、と開き直る実に醜い性質です。神様に従うよりも、まずは自分の判断に頼ります。神様に信頼しすぎないようにとどこかで信仰のブレーキを踏んでいます。私たちには死の恐れも大きいです。他人事だと病いや老いや死について平静に話すことができますが、自分の身に降りかかったら恐ろしくなります。また、いろいろな誘惑があります。自分を喜ばせ自分のプライドを満たすことが人生の目的になってしまいます。これだけがんばってきたんだから少しくらいはいいだろうと思ってしまいます。認められ褒められないと、人を攻撃します。

油が切れてしまうとたいへんです。油を絶やして自分の力、知恵、判断で歩み始めてもややもやしてくると信仰生活に霞がかかります。時として自分の中で葛藤があります。新しいイエス様のいのちと、古い自分の生まれながらの頑固で強情な思いの戦いとも言えます。死の恐れと命の希望の戦いです。

自分の考えや思いに任せず、油であるイエス様の赦しのことば、いのちのことばにいつもとどまりましょう。自分の力や知恵ではなく、壺に入れて準備している油はあなたを自由にします。福音の説教とイエス様の血と体の聖餐の油を絶やさないようにしましょう。腐っている自分のためにイエス様が十字架にかかってくださいました。裁かれて死ぬしかない私のために、よみがえりの命を与えてくださいました。私たちはイエス様によってすべての罪を赦されています。私たちには内にイエス様の新しい命が与えられています。いつもみ言葉と聖礼典によって罪の悔い改めと赦しの宣言をいただいて、神様の恵みの原点に立ち返らせていただきましょう。聖霊が福音のみ言葉とイエス様の血と体の聖餐という油によってあなたを悔い改めと信仰に整えてくださいます。いつイエス様が来られても、いつこの世のいのちがおわっても油によって花婿を迎えることができます。「目を覚ましていなさい。あなたがたはその日、その時を知らないのだから。」

賢いおとめたちは、油をもってともしびをともし、道を照らし花嫁を照らして役割を果たすことができました。今週もイエス様によって赦されたものとして、また新しい命と使命を与えられたものとして、出会う方々の心を照らし、人々の役に立つ、暖かい一週間を暮らしましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

**聖餐の部****主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節**

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあつて我らはひとつ。  
 <繰り返し> マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2
2. 主の十字架を思い、主の復活をたたえ、主のみ国を待ち望み、主にあつて我らは生きる。  
 <繰り返し>

**主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

**設定辞**

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン。

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。アーメン」

**配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番****赦しの宣言**

主イエス・キリストのまことのからだ、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちにいらせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。  
**アーメン**

**主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節**

3. 主の呼びかけに応え、主の御言葉に従い、愛の息吹に満たされ、主にあつて我らは歩む。  
 <繰り返し> マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

**讃美歌 259 番 献金 献金感謝の祈り**

1. 天（あめ）なる主イエスの こよなき愛は、かよわき心の 隠れ家なれや。

責めと恥との 十字架を偲び、わが罪咎（つみとが）をば あがない給う。

- 2 恵みに背ける 我をもすてず、主イエスは血汐の 功（いさお）によりて、  
この身の汚れ ことごと潔（きよ）め、つきせぬ生命（いのち）と 安きをたまう。
- 3 あおぐも畏（かしこ）き、 わが主の前に 燃立つばかりの 愛もてつかえ、  
うきも悩みも み旨にゆだね、天なるつかいと 共にぞ歌わん。
- 4 十字架の恵みに 喜びあふれ、涙にむせびて み許にはべり、  
世に勝ちませる 主イエスを称え、輝くみさかえ 仰がせたまえ。 アーメン

#### 頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊のちからよ、あぁみさかえよ。 **アーメン**

#### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

#### 後奏